

第31回

東京国際映画祭

日本映画スラッシュ部門

正式出品作品

嘘も方便。

鈴木家の嘘

岸部一徳 原日出子 木竜麻生 加瀬亮

吉本菜穂子 宇野祥平 山岸門人 川面千晶 島田桃依 金子岳憲 政岡泰志

岸本加世子 大森南朋

野尻克己 初監督作品

監督・脚本：野尻克己 制作：井田寛 エグゼクティブプロデューサー：深田誠剛 企画・プロデュース：小野仁史 プロデューサー：近藤貴彦 撮影：中尾正人 照明：秋山憲二郎 録音：小川武 美術：渡辺大智/塚根潤 編集：早野亮

衣裳：小里幸子 ヘアメイク：豊川京子 ステール：三木匡宏 キャスティング：山田恵理子 音響効果：吉田優貴 新体操指導：山本里佳 VFXスーパーバイザー：田中貴志 助監督：小南敏也 ラインプロデューサー：伊達真人

音楽：主題歌：明星/Akeboshi「点と線」(RoofTop Owl) 制作：松竹ロードキャストイング 制作プロダクション：ハーベストフィルム 配給：松竹ロードキャストイング/ピタース・エンド 宣伝：ピタース・エンド/シャントライ

助成：文部科学省文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 2018年/日本/133分/カラー/ビスタ/5.1ch/DCP ©松竹ロードキャストイング (TM) www.suzukikenouso.com

ある日突然、兄が死んだ。母にはまだ本当のことは言えないけれど。





嘘をつきました。

母の笑顔を守るため、

私たちは、

それは、悲しみを乗り越えるための優しい嘘。

ユーモアたっぷりに家族の再生を描く感動作。



鈴木家の長男・浩一がある日突然この世を去った。ショックのあまり記憶を失った母のため、遺された父と長女は一世一代の嘘をつく。「引きこもりだった浩一は家を出て、アルゼンチンで働いている」と。父は原宿でチェ・ゲバラのTシャツを探し、娘は兄に成りかわって手紙をしたため、親戚たちも巻き込んでのアリバイ作りにいそしむ。すべては母の笑顔のために—！母への嘘がばれないよう奮闘する父と娘の姿をユーモアたっぷりに描きつつ、悲しみと悔しみを抱えながら再生しようともがく家族の姿を丁寧に優しく紡ぐ感動作。家族の死と、そこからの再生という重厚なテーマを心に沁みいるハートウォーミングな喜劇に仕立てた、まったく新しい家族映画の傑作が誕生した。

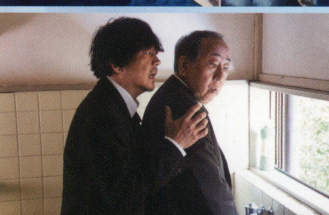
日本映画を代表する名優たちが一堂に！

自身の経験を基にしたオリジナル脚本による野尻克己初監督作。



鈴木家の家長・辛男役に岸部一徳、母・悠子役に原日出子、引きこもりの長男・浩一役に加瀬亮が扮し、いざれも見事な演技を披露するほか、瀬々敬久監督作『菊とギロチン』で主演の女力士を演じ注目された新星・木竜麻生が長女・富美を演じ、瑞々しい輝きを放つ。そのほか岸本加世子や大森南朋ら演技派が個性的なキャラクターの親族を魅力的に演じ、画面を明るく彩る。

『滝を見にいく』(沖田修一)、『恋人たち』(橋口亮輔)などを生み出した松竹ブロードキャスティングのオリジナル映画プロジェクト第6弾となる本作は、橋口亮輔(『恋人たち』)、石井裕也(『舟を編む』)、大森立嗣(『セトウツミ』)ら名匠たちの助監督を務めてきた野尻克己の監督デビュー作。脚本も、監督が自身の経験を基に手がけたオリジナルで、笑いと涙が絶妙に盛り込まれた見事な物語は岸部一徳ら名優たちをもうならせ、出演を快諾させた。



出演：岸部一徳 原日出子 木竜麻生 加瀬亮
吉本菜穂子 宇野祥平 山岸門人 川面千晶 島田桃依 金子岳憲 政岡泰志
岸本加世子 大森南朋

製作：松竹ブロードキャスティング 制作プロダクションハーベストフィルム 配給：松竹ブロードキャスティング/ピタース・エント

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 2018年/日本/133分/カラー/ビスタ/5.1ch/DCP ©松竹ブロードキャスティング

www.suzukikenouso.com

11/16 (金) ロードショー

想いがあふれる

インターネットで座席指定ができるカード型前売券 1,500円(税込)絶賛発売中! ※一部劇場除く

新宿駅東口・伊勢丹メンズ館そば

新宿ピカデリー

050 (6861) 3011 全席指定・各回入替制
www.smt-cinema.com/site/shinjuku

銀座4丁目 和光ウラ通り 全席指定・入替制

シネスイッチ銀座

03-3561-0707 www.cineswitch.com

鈴木